

車内読書で楽しい時間に

高校生 吉田 友朗 16

(愛知県)

電車通学を始めて三ヶ月になる。学校までの行き帰りの90分を車内で過ごしている。考えてみればけっこうな時間だ。通学当初はスマホでSNSなどを見て時間をつぶしていた。

ある日、いつものようにSNSを見ていて、ふと周りに目をやると、眠そうな目で何かを入力している人、だるそうにスマホゲームをする人、スマホを手にしたまま足下に視線を落としている人が目にとまった。どこか一様に疲れているように見えた。私も彼らと同じように見えるのではないかと思った。

その時、一人の男性が乗ってきて、カバンから本を取り出して読み始めた。その人はさっきの人たちと違って、本の世界を、車内の時間を楽しんでいるようだった。以前は自分も本をよく読んでいたことを思い出した。

学校の帰りに朝のことを思い出して本屋に寄った。次の日から朝の電車で本を読みながら楽しい気分で行くようになった。皆さんもスマホではなく、本を手に車内読書で楽しい時間を過ごしてみませんか。

静かな選挙にできないか

高校生 島谷 太一 16

(東京都)

学校からの帰り道、改札を出ると駅前広場で候補者が選挙演説を行っていた。演説は駅近の塾の教室に入っても続いていて、スピーカーからの大音量のせいで授業に集中できない。昼の学校でも選挙カーが何度も通りすぎ、候補者の名前だけを大音量で連呼していた。

選挙権のない私にも選挙が重要なのは理解できる。よりよい社会をつくるための政治活動は素晴らしいと思う。しかし、どんな社会にしたいのか、具体的な政策を訴えるのではなく、単なる名前の連呼はむしろ逆効果ではないか。小さな子どもがいる家やペットがいる家は選挙カーが通るたびに眠りを妨げられたり吠え出したりと、かなりの悪影響も出ているという。

選挙演説ができる場所や選挙カーが回れる地域を制限することを考えてほしい。インターネットが普及した現在、選挙ポスターの掲示を含め、選挙活動のあり方を根本から見直すことも必要ではないだろうか。選挙にかかる経費も抑えることができるはずだ。

学校の制服は必要か

高校生 大林 悠司 16

(福岡県)

制服のない高校に進学して改めて感じたことがある。学校の制服は本当に必要なのだろうか。

中学校の時は制服が決まっており、おかげで毎朝の服選びで迷う心配はなかった。もちろん、制服は高価なので着替え分を用意することはできず、毎日同じものを着ていた。中学時代は身体の成長が著しく大きめのサイズを購入したため、入学後しばらくは着心地の悪い大きめの制服を着なければならなかった。新型コロナウイルス感染対策として一日に何度も手洗いや消毒する習慣が一般化した現在、着る服は毎日同じというのなんだかおかしい話だ。さらに個人の価値観が尊重される現代において、制服を強制するというのも認めがたい気がする。

以上は制服がない学校へ進学したことによって気づいたことである。今はその日の気温や天気に合わせて、身体のサイズに合った洗い立ての服を着て毎日登校できている。学校の制服が本当に必要なのかどうか、考える時が来ていると思う。